

口領子

和書門			
類	號	函	架
一	八	七	一
冊	四	〇	一

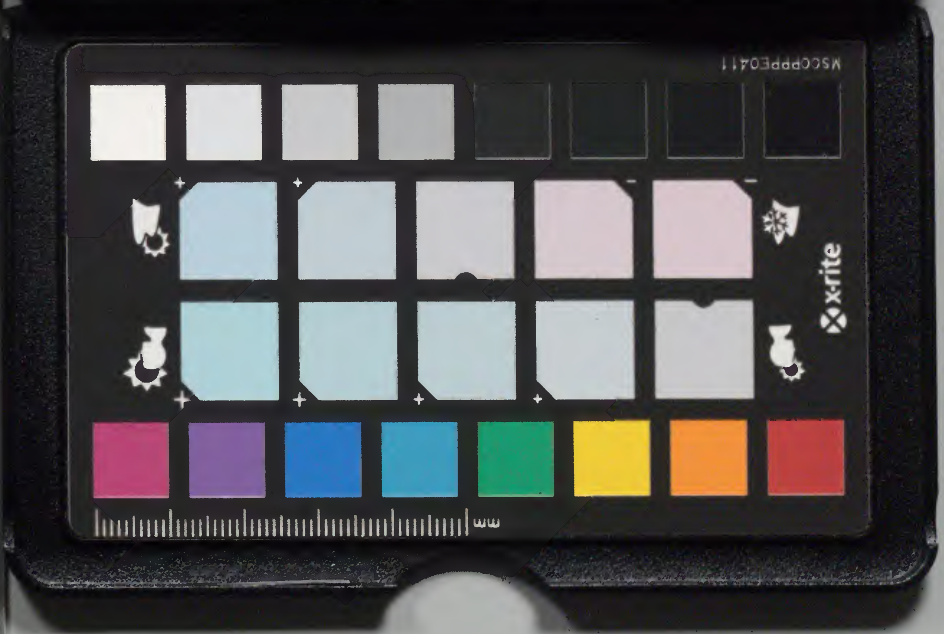
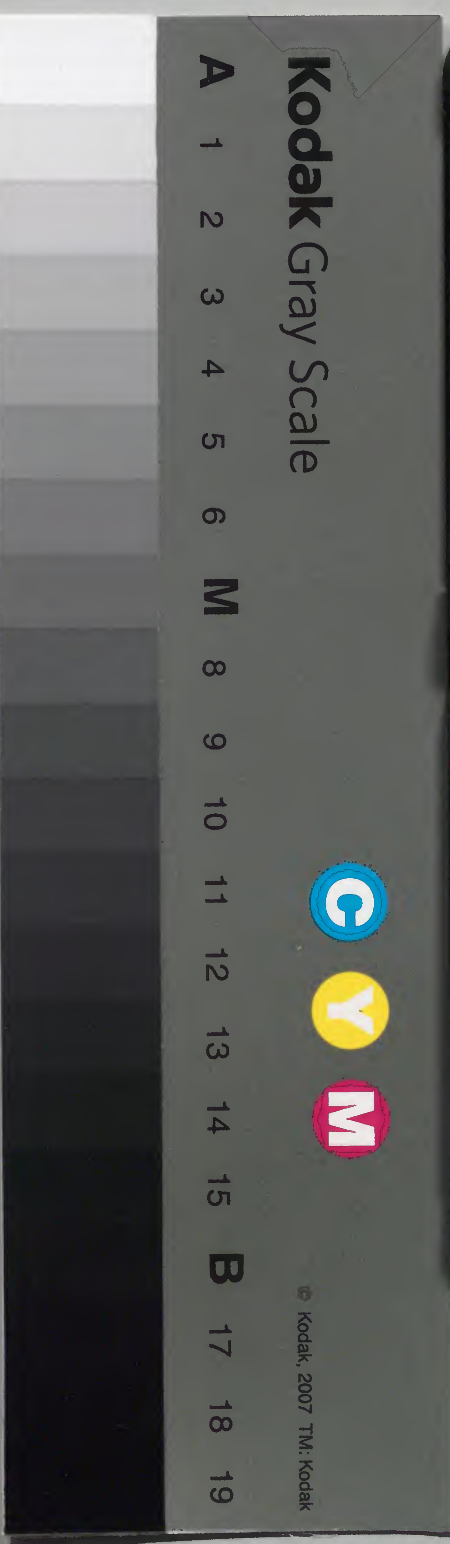
2

內閣文庫			
類	號	冊	函
一	八	七	一
架	四	〇	一

(一)

內閣文庫	
番號	和 18788
冊數	4 (1)
函號	212 2

212-2



秋齋月桂先生著

南嶺子

此書造化人功愛異俗詭語編 古書也
易く新説詁評 百家の書よむに隨之
政事を論ずる也

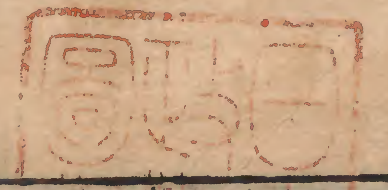
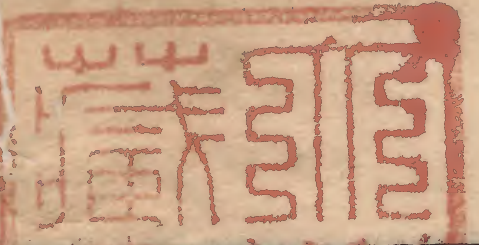
書南嶺子後

淺草文庫

南嶺在秋齋桂先生之

外編而南嶺子在詁評

思 釋 中 而 著 之 以 俗 語



說之以俾說彼後者而曉

焉先生以

本邦典故之學鳴于世南

以經子唯示產學以之矣

主之也而已書實集氏

物上梓蕭与松庵記

校合再次以在旨也書

未

始安。知者以為希世宏器。其學博綜
 強記。又有獨得之見。專研究故典。蓋
 聞的神史之經祕。故獨處視當世名
 群籍甚。講道。 犖轂之下者有年。
 時或翱翔于東都。尾尾濡之間。以道
 謁于千乘之君者。亦不為少。而其所著

著筆如干。嘗炳焉如觀火。率以中
 夏歷代之沿革。參互會通。遂得是
 正。後還京。仕于竹園。懿親王家
 更。張桂氏。此善有所知。括云。見為序
 予。辭以不文。而不許。因陳其梗槩。以
 為弁云。

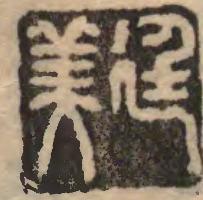
寬延七年己未六月南海陶冕諱撰

陶冕者本姓陶山名冕

南濤號尚善小稱土佐

產東涯門人初宮津族

仕後京師及浪花隱



南嶺子序

桂子取善南嶺子三卷之序
其意之惑其詞之確
使讀者至不自厭駭之而猶思
者豈非取桂子當派者之書
數千載未嘗建福播華以成

昔者接耳桂子本姓有田之先
自撰之每田源以出之其為人
高放之少致小者博學無記可
忘也 吾邦之典古以正名為
學古由國史及之再出之證古
好論神書之派世為明者多之不

与也祝語怪祿儒說理附之以
神道之法任編成一書以教焉
從而學者法之有而為者轉世
學又相放人於是乎致矣會釋
紀多自傾書也京師二十五年如
一日初桂子遊東武又如屋城

訪後方人受其者亦多之亦培
 是子多涉時之備之也且欲
 年於此亦在桂子高之卷不
 以古毀毀譽之也哉桂子亦
 光樹字以實南嶺主亦辨也
 才就之語序亦亦亦以題

實正己已上之活生

讀政 良其之仙耕播



桂秋姦者俗稱多田兵部義俊
号^又南嶺子初学^又壺井鶴翁于
元來浪花之人來^又江戶住筑地
寬延年中之人也一說^又九劫阿
蘇宮神職也云云

南嶺子 引用書目

- 周禮 禮記 詩經 書經 說文
- 爾雅 春秋左氏傳 呂氏春秋 國語 史記評林
- 孔子家語 淮南子 文選 漢書 宋史
- 韓文 列仙傳 閩書 論語大全 稗海
- 群書治要 輟耕錄 字彙 事物紀原 陳氏樂書
- 蓋溪筆談 武備志 登壇必究 經國大典 本草綱目
- 東醫寶鑑 吳子 唐書 孫子 唐李涪刊誤
- 法華經 萬行首楞嚴經 佛本行經 傳燈錄 佛祖統紀
- 宋高僧傳 續高僧傳 釋氏要覽 南海寄歸傳
- 日本書紀 續日本紀 續日本後紀 日本紀略 三代實錄

古語拾遺	令義解	令集解	延喜式	貞觀儀式
北山鈔	丈德實錄	雜律	江家次第	朝野群載
類聚雜要	類聚三代格	倭名類聚鈔	本朝文粹	釋日本紀
拾芥鈔	東鑑	玉塵鈔	梁塵愚按鈔	玉海
野府記	二水記	太平記	庭訓往來	新申樂記
明衡往來	方丈記	源氏物語	神皇正統紀	徒然草
高橋の記	萬葉和歌集	古今和歌集	新古今集	伊勢物語
平家物語	太閤記	禁祕鈔	明月記	枕草紙
定活拾遺物語	長秋記	園大曆	大和物語	園槐鈔
百練鈔	類聚國史	神社啓蒙		

右引書通計凡九十七部

南嶺子 目次

一	佛船風波論	二	七福神詔
三	漢耽僂者論	四	三年喪義
五	漢風ヲ好異人説	六	文字ヲ知テ謬己詔
七	觀音ノ歌ノ義	八	儒佛賢愚ヲ分論
九	梵語ノ義	十	天竺牛糞ヲ崇ム説
十一	平現ノ義	十一	儒佛ノ徒神事ニ戻義
十三	天皇氏地皇氏ノ義	十二	神代人代人論
十五	博奕古ヨリノ禁	十三	神國ト云ノ義
十七	數ニ書物ノ諺	十六	兼好長明ノ論
十九	不定日ノ義	十八	人相ノ論
廿一	聖德王ノ考	廿二	古代遊女ノ義

南嶺子

目次

南嶺子

三三 傀儡ノ説

三五 永樂錢ノ事

三七 古ノ婚禮ノ義

三九 牛ニ用テ捕サントスル論

世一 倭奸忠良ニ似タル義

世三 方語郷談ノ事

世五 古云百姓ハ百官ノ義

世七 藥ノ精論ヲナス話

世九 古今和歌集序詞ノ事

世十一 直物袋漢土ノ證文并牡丹花老人ノ事

世十二 忌鉄藥ノ論

世十四 獅子舞ハ唐ノ太平樂ト云考

世四 坂口羽ノ教示

世六 僧ノ髻アハ非法ノ義

世八 味嫁女不結髮ノ事

世十 善人ニ親ムルノ事

世十二 朱ヲ奪フノ紫ハ今紫ト別ト考

世十四 言語ノ千ルトナラザル論

世十六 庸醫誤人ノ義并六尺ノ字

世十八 感狀ハ佐ノ木婚ト云誤ヲ解

世二十 庭訓往來ノ考

世二十三 空理字ノ事

世二十五 一勇ハオタラザルノ答并清盛ノ正成朝臣ノ事

四六 正成朝臣漆川ノ義

四八 平魚ヲ賀祝ニ用ル事

五二 神前湯去ノ事

五三 古官人衣ヲ着セシ事

五四 嫡子長子ノ分

五六 獲樂段ヲ取事

五八 外宮文庫ノ事

六二 蕎麥ヲ解事

六三 極樂ノ字

六四 柿本人麿ノ事

六六 猿樂古今ノ異

六八 忠臣良臣

四七 六月夜火剋金ノ説

四九 祢宜ノ字義

五一 神事ノ舞女ヲ市ト云義

五三 鳥井ノ考

五五 二合字ノ事

五七 真野氏撰書ノ事

五九 桃花ノ事

六一 子夕ハノ字

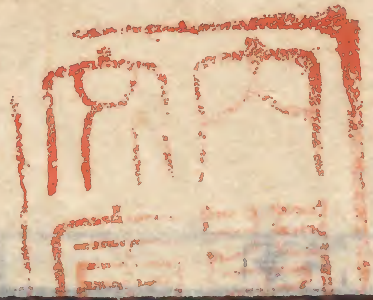
六三 足程ト云名ノ起リ

六五 猿樂ノ伎目

六七 高砂謡曲

六九 富士ノ三尊

風吹くふとこころは根國底國は氣吹放末は佐須良比夫とん
 しくよはほく風をほくつとくならん人皆ささひうかまかありあ
 なると輪袈裟かけ老後やつくつが仏陀其冥感あはるぞ念いでみ
 船中と救らん光明まをくれぬく暗はらよぞくくんと暗く
 船よさびきや山伏げくとたきありまぞよ文をよ入る船中の難と
 たときんそ統まていれ例もありまは優優劣寒のせんそみ
 野よ一山おぬや清りその験とるるといらるの珠教れも一か
 ぞくおひび大信まげと浸ま山伏もろの舟よほらびね船後とよ
 いらつ強者そのあやま書言よる合や悔一まよぞわまてが新法はよ
 くらんまな物を片物よゆりまやまらとらりまは一まをまの



りもちく船を片田よつとそ人かき衣捨ひりまならぬれ船の
 よのまの神正坐家山伏のけりも船人のまらまらふはまらりまよ
 つけても老き病人の茶とまらて香水は腹中と換古の名醫陰
 陽とらら論は論をまねてら一方茶とこら神勅夢虫の妙茶
 を伝はる使と悪をらまらら神より伝り茶の事ハ功あつ遠まど
 勝まらぶ一りる道成まらま精茶と起るま精の茶をまはは
 せくあくう目はのむはもまのけのまらら一りらまの精茶
 あまらあるぬいの力あまらまらまらまらまらまらまらま
 ちの陀羅尼あまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 もつものまらら

漢のものと我功徳池とほると彼國天竺の正とゆふ。天竺はなるが。日
 什來の人熱をよふと。浴をて甚と。を救ふと。唐
 まで處と。池を造ると功徳と。天竺熱はあるが。あ
 あれ南海寄席侍よのせり。天竺のものを漢へ。漢土
 のものと。大日本へ。其の。ど。な。え。ち。て。杜。著。と。う。の。と。訓
 一。歎。み。と。や。ぶ。と。お。顔。あ。け。て。か。ぎ。で。梵。語。と。漢。語。は。譯。と。う。の。
 唐の舊譯とも。唐の後の新譯とも。の。漢土の字
 を體の。天竺の音と解の。日本亦音と本め。漢字のり。より。も。
 花北日波祭月此日都幾。梵語を漢語に譯と。裏表也。阿迦
 此日水摩迦此日大の類なり。も。より。日。の。語。は。天。竺。と。む。ら。う。の。物

廿九

多。一。お。め。の。入。ち。と。ア。カ。と。云。血。と。サ。ラ。尾。と。カ。ハ。ラ。後。と。方。も。ミ。シ。ラ。も
 よ。じ。ご。く。日。の。語。と。入。ち。と。も。や。ら。ん。と。耳。よ。ま。の。物。を。日。の。め
 才。量。と。な。れ。う。傍。あ。り。て。漢。土。の。一。た。を。ゆ。と。う。の。日。の。語。と。あ
 天竺の語と。譯と。誤と。其。人。を。事。と。い。ん。
 ○天竺の牛の糞と。南。海。寄。席。侍。の。乾。け。つ。牛。糞。と。地。の。指。指。清。淨。を。り。り。と。其。よ。し。人。を。て。卧
 息。と。む。の。也。二。才。は。給。ふ。南。尼。瓦。羅。國。天。竺。地。に。牛。糞。と。そ。の。壁。ふ
 め。り。或。は。と。と。焼。く。と。と。樂。む。は。也。又。は。牛。糞。壇。と。牛。の
 糞。と。壇。と。な。り。て。法。は。も。う。の。境。域。殊。を。な。し。て。沉。檀。と。を。し
 ころ。人。の。と。と。の。ゆ。ゑ。る。也。或。は。能。化。と。と。の。傍。と。を。し。

近年新法と業と勅補の祿を神をのあはれと市中
 又六村邑は住一神乃者と名のりけて人を誣ふ属男をなせと現
 とひ女をなせと坐とひ現も巫の人を誣詐の号なりと源
 順の倭名類聚鈔卷之二人倫於よを盗類と記之とて巫現（和名加
加羊祭）遊女を兒偷盜群盜海賊囚人を引さるも巫現と第一はち
 れぬ也其はまてはよくあはれものみまらるるなり。巫現とあはれとよ
 におの古書のかそたのこ。巫現は後と姓と恨むと恨む。中
 唯順の記は後々のこ。續日本後紀第十五承和十二年七月又中
 務少録正五位下巫部宿祢以下五人神饒速日命の裔かろよ子細
 ありて桓武天皇をたて。巫のこひ姓と賜りけりやと巫現の子持の

振あく迷惑をるるこ移ひに當世の宿祢と改婦りしりるなり
 古より巫現とよむるものなり。官幣小祠大社小社の神人ハ
 其社のありつけまらぬの形を庶民の行儀は詭譎なり。あはれは別
 儀をふりて市中の巫現はゆりけりてとて罪後をく。禮王制ニ
 曰。假於鬼神時日ト筮以疑衆殺之。又一種神道者といふものあり
 神代卷中臣後をてと記して。門法とありて。是を巫部とて。今胎
 ありけりて。後者神あり。あはれは六村のあはれなりと。むら
 ぐらあはれ神あり。あはれは。神道唯一篇をりて。あはれ唯一
 神あり。天と人と唯一と。唯一神あり。深秘の大事ハ唯一人
 まらり唯一神道のり。護摩とて。加持とて。是と靈寶神道加持

とつとあつよ。其^{その}儼^{げん}あ^あぬ人^{ひと}祥^{さむらひ}とあ^あ肩^{かた}よう^{よう}は^はと^と無^なく^く神^{かみ}あ^あ向^{むか}つと
 礼^{らい}と^と心^{こころ}ぬ^ぬ神^{かみ}よ^よ向^{むか}て^て後^{あと}を^をよ^よむ^む類^{たぐひ}は^は法^{はふ}を^を罵^{のの}する^る。以^{もつ}家^けの^の正^{ただし}の^の
 おちて^て木^き綿^{わた}禪^{ぜん}と^と禱^{いた}言^{ごん}受^うま^まひ^ひと^と礼^{らい}と^と拈^{ねん}燈^{てう}よ^よけ^けく^くあ^あら^らう^う
 為^な身^みの^の法^{はふ}よ^よ國^{くに}史^し格^{かく}式^{しき}の^の拈^{ねん}據^こと^と引^ひく^く。其^{その}謬^{まちがひ}と^とち^ちを^を先^{まづ}の^のもの
 主^{しゅ}と^とあ^あて^て目^め利^り人^{にん}の^の行^{ぎやう}よ^よ大^{だい}道^{だう}の^の外^{がひ}よ^よ別^{べつ}よ^よ道^{だう}あ^あつと^と知^しぬ^ぬて^て。意^い必^{かならず}固^こ我^が
 の^の醜^{みにく}塊^{くわい}申^{まを}し^しひ^ひら^らぬ^ぬま^まよ^よ以^{もつ}愚^{おろそ}ま^まひ^ひく^く愚^{おろそ}り^りて^て下^{くだ}る^る。い^いら^らう^うの^の古^こ經^{きやう}
 ひ^ひら^らう^うの^の如^{ごと}き^きの^のよ^よう^う。漢^{かん}学^{がく}者^{しや}の^のあ^あり^り神^{かみ}を^を護^ごり^りて^て不^ふ本^{ほん}歎^{たん}也^や乎^や

南嶺子卷之一



